

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立母衣小学校）

平成30年9月25日

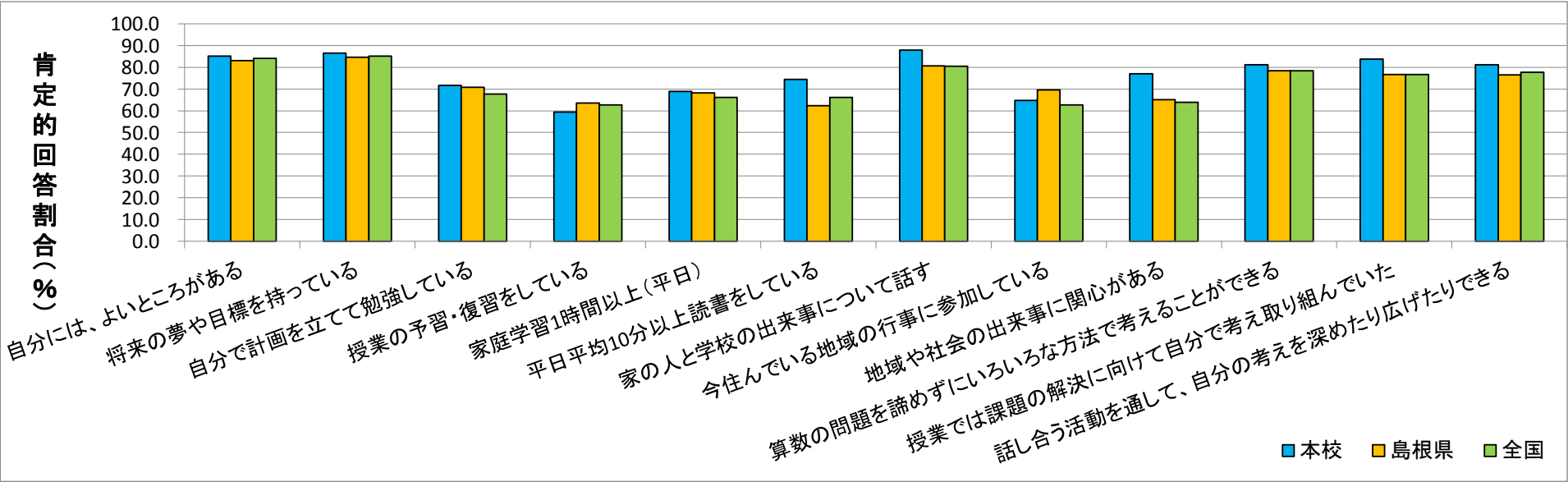
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○どの領域、観点でも全国平均を上回っている。特に「読むこと」については全国平均を10%以上上回っている。 ●他の領域と比較すると「学年配当表に示されている漢字を文章の中で正しく使う」ことがやや弱い。	・読書の習慣が「読む力」につながっていることを児童に伝え、引き続き読書を奨励していく。 ・学習した漢字を単語のみで練習するのではなく、文章の中で書いたり練習したりすることで、意味を考えながら活用することができるようにする。
	B (活用)	○どの領域、観点でも全国平均を上回っており、ほぼ全てで全国平均を10%以上上回っている。 ●「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」問題で無解答の割合がやや多い。	・授業の中で文字数等の条件を与えて文章を書く学習に取組ませ、自分の考えを様々な条件に合わせてまとめることができるようにする。 ・授業の中でも時間を意識することで、時間内に課題を解決していくことができるようにする。
算数	A (基礎)	○全体としては全国平均を上回っている。その中でも、量と測定の領域の得点が高い数値を示している。 ●図形領域は、県の正答率よりもやや高いが、全国の正答率と比べるとやや低い数値になっている。	・知識・技能面を着実に身に付けさせるために、スキル・ドリル学習の充実を図る。 ・児童の実態に合わせて図形領域に関する問題に取組ませる。 ・家庭学習で算数の学習を習慣化して行うように指導する。
	B (活用)	○全体として、図形以外の領域で、全国平均を上回っている。 ○ちねりとして中の上以上に分布が多くなっている。 ●図形領域が全国平均を下回っている。 ●1問も問題ができなかった児童の割合が全国・県と比べて多くなっている。	・「聞く」指導を徹底するとともに、自分の考えを持ち、友達の考えと比較しながら、共通点・相違点を明確にさせる取組を行う。 ・問題を解いて答えを出すだけでなく、その解法の説明をできるようにする。さらに、解き方の図化・文章化を授業で意図的にっていく。
理科		○どの領域でも全国平均を上回っている。観点では、「技能」を除くすべてで全国平均を上回っている。 ●「技能」に関する問題、特に「ろ過の適切な操作方法」に関する問題の正答率が低い。	・授業中に行っている実験の方法や道具の名称を丁寧におさえるようにする。 ・課題に対して、どんな実験をすれば解決することができるのか考えさせるようにする。

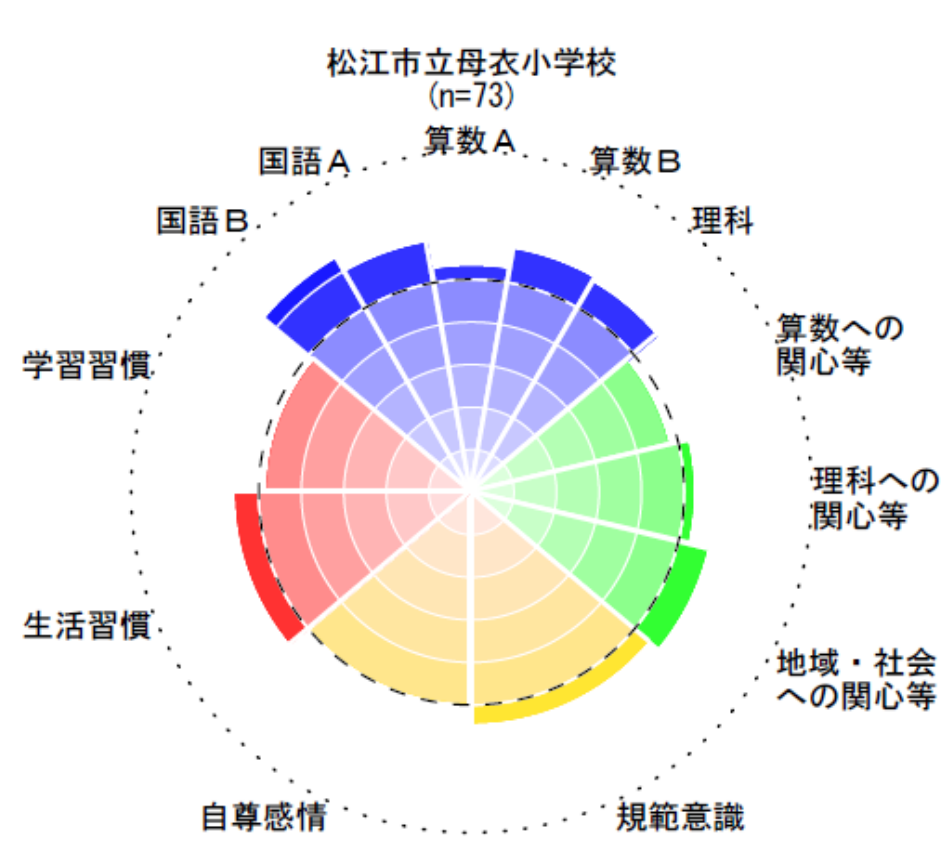
(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
		○全体的に自己肯定感が高く、将来に向けて進んで学習することができている。 ○基本的生活習慣や家庭学習、読書の習慣が身についており、社会への関心も高い。 ●出された課題にしっかりと取り組むことができるが、自分の弱点を補うために自分で課題を設定して家庭学習をすることがやや少ない。 ●地域の行事への参加意識がやや低い。	・家庭学習での復習のやり方や内容の例を示し、自分から取り組むことができるよう支援する。 ・学習内容や、家庭学習での子ども達の取組を掲示やお便りで家庭にも知らせ、協力して取り組むことができるようにする。 ・地域行事の案内を配布する際、その行事の意義や内容を説明するようにする。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・自分でしっかりと考えることができる児童が多いので、友達との「学び合い」の学習を積極的に取り入れ、自分の考えを広げていくことができるようにする。
・市全体の大きな行事等が地域で行われていることが多く、実際は参加していることも多いので、「地域」についての認識が広げられるよう指導していく。

【参考】

○平均正答率

		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	78	70	68	70.7
	B	66	57	55	54.7
算数	A	65	62	61	63.5
	B	58	50	49	51.5
理科		65	59	58	60.3

受検者数 73 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。